

# 苫小牧市高齢者に対する市内路線バス優待 乗車証等交付規則の改正(案)資料

---

令和6年10月

苫小牧市福祉部総合福祉課

# 1 制度の概要

## (1) 事業の目的と沿革

【目的】高齢者の社会的活動への参加を促すことで福祉増進を図る。

### 【沿革】

時期	内容
昭和49年	事業開始。市が運賃全額負担し、高齢者は無償で乗車
平成18年6月	市の財政健全化を目的に、全額運賃負担から一部運賃負担に変更し、高齢者優待乗車証及び高齢者フリーパスを開始した。
令和5年12月	バス運賃が改定(前回改定は平成8年9月)され、市の運賃負担額増加

## (2) 事業の概要

対象・・・市内に住民登録のある70歳以上の方

**高齢者優待乗車証**・・・1回の乗車につき100円で市内路線バスを利用できる乗車証を交付

**高齢者フリーパス**・・・1か月2,000円で市内路線バスを乗り放題で利用できるパスを販売

## 2 制度の仕組み

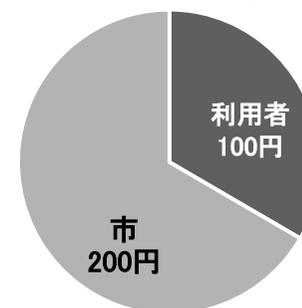
### (1) 高齢者優待乗車証



バス運賃が300円の場合  
(300円は運賃値上げ以降の平均運賃)

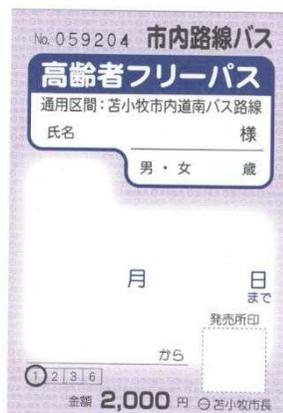
バス運賃	300円	
負担者	利用者	市
負担額	100円	200円

バス運賃負担の構成



負担比 利用者1:市2

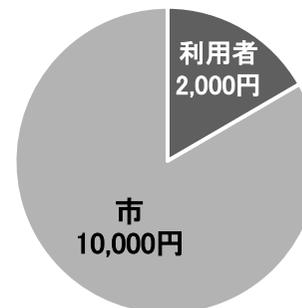
### (2) 高齢者フリーパス



利用回数が月に40回の場合  
(40回はフリーパス1か月あたりの平均利用回数)

バス運賃	300円 × 40回 = 12,000円	
負担者	利用者	市
負担額	2,000円	10,000円

バス運賃負担の構成



負担比 利用者1:市5

### 3 利用状況

#### 【令和5年度実績】

	乗車回数	正規運賃	本人負担額	市負担額	事業費比率
高齢者優待乗車証	35万5,000回	9,108万円	3,547万円	5,561万円	46.9%
高齢者フリーパス	29万3,000回	7,806万円	1,503万円	6,303万円	53.1%
合計	64万8,000回	1億6,914万円	5,050万円	1億1,864万円	100.0%

(乗車回数は下3桁、金額は下4桁を四捨五入)

苫小牧市70歳以上の人口(R6.3.31時点)	40,033人
高齢者優待乗車証交付者数(R6.3.31時点)	23,865人
高齢者優待乗車証交付率(R6.3.31時点)	59.6%
高齢者フリーパス販売月数(R5.4.1～R6.3.31)	7,516月
高齢者フリーパス購入者数(R5.4.1～R6.3.31)	983人
高齢者フリーパス利用者率	2.5%

## 4 事業見直しの理由

- ・令和5年12月の市内路線バス運賃改定により市費負担が増加
- ・持続可能な制度を目指し、利用実態把握の上、事業内容を検討

### 【市費負担額の推移】

年度	高齢者優待乗車証分	高齢者フリーパス分	市費負担合計
平成30年度	4,983万円	7,116万円	1億2,099万円
令和1年度	4,542万円	6,102万円	1億644万円
令和2年度	3,598万円	4,382万円	7,980万円
令和3年度	4,421万円	5,474万円	9,895万円
令和4年度	4,531万円	5,447万円	9,978万円
令和5年度	5,561万円	6,303万円	1億1,864万円

(下4桁四捨五入)

- ・令和6年7月末時点：市費負担47,356,530円(優22,705,740円、フ24,650,790円)
- 年間では約1億4,200万円の市費負担見込み(令和4年度比4,220万円増)

# 5 利用実態アンケート

## (1) 調査概要

	調査方法	調査件数	回答数	回答率
高齢者優待乗車証	郵送調査	300件	210件	70.0%
高齢者フリーパス	窓口調査	270件	203件	75.2%

## (2) 主な回答内容

	高齢者優待乗車証		高齢者フリーパス	
事業の実利用者数	19,000人		1,000人	
バスの平均利用回数	年に数回程度	36%	週に3～4回	51%
	月に1～3回	34%	週に5回以上	34%
	週に1～2回	18%	週に1～2回	14%
バスの主な利用目的	通院	35%	買い物	31%
	買い物	27%	趣味・スポーツ等	20%
	友人等交流	14%	通院	20%
	趣味・スポーツ等	11%	通勤（仕事）	14%
自己負担額に対する意識調査	妥当	78%	妥当	75%
	高くてもよい	12%	高くてもよい	8%
	もっと安く	10%	もっと安く	5%

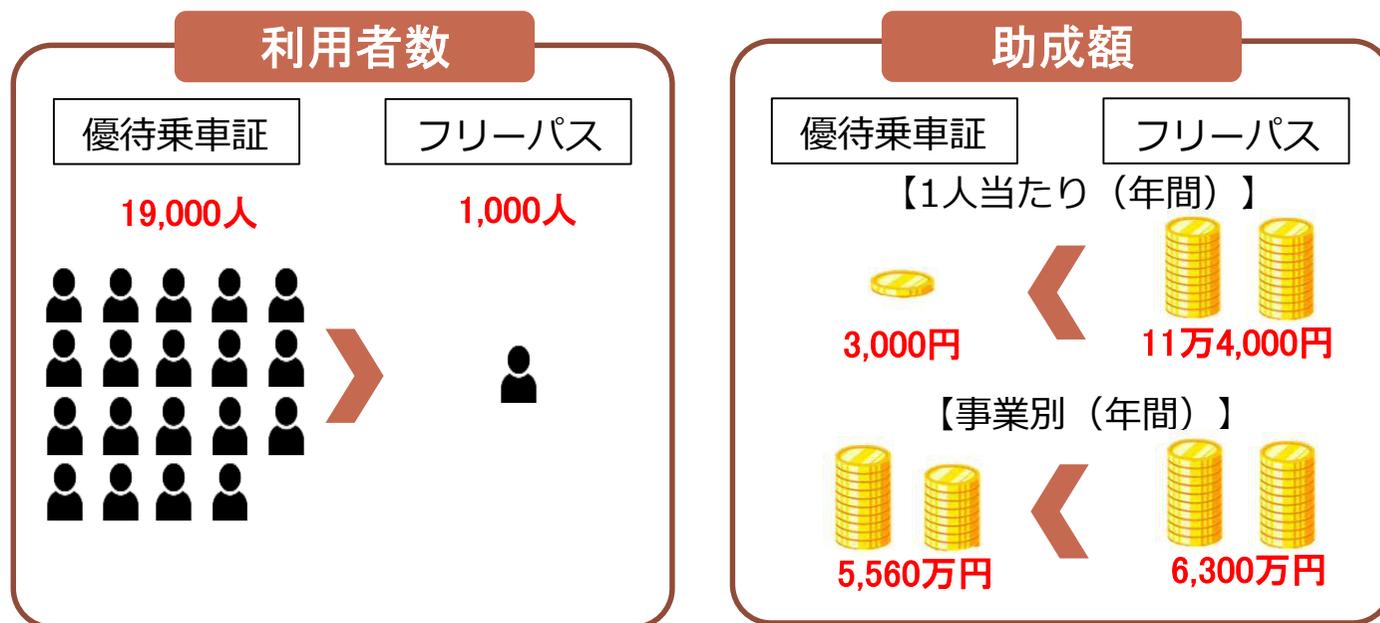
## 6 見直しの際に大切にしたこと

### (1) 見直しの際に大切にしたこと

ア 変更内容を**最小限にとどめる**。

イ 利用者に**一定の負担**を求めることで持続可能な制度を目指す。

### (2) 現状の整理



## 7 今後の事業方針案



### 高齢者優待乗車証100円乗車の維持

優待乗車証の100円を維持することで、多くの方はこれまでと変わらない費用負担でバスに乗車できる。



### 高齢者フリーパスの廃止 ((※) 令和7年3月末で販売終了)

(※) 令和7年3月末までに購入されたフリーパスは有効期間(最長6か月)が切れるまで有効

#### 【方針案選定理由】

- (1) 優待乗車証の存続により、多くの方がこれまでと変わらない利用方法でバスに乗車できる。
- (2) 優待乗車証100円乗車により、気軽に外出できる環境が維持される。
- (3) 誰もがバスの利用回数に応じた費用負担となり、助成の公平性が増す。
- (4) 約1,800万円の財政効果額が見込まれ、高齢者交通費助成制度を存続できる。